

Title	神戸市外国語大学 外国学研究 XIX 表紙
Author(s)	
Citation	神戸市外国語大学外国学研究. 19
Issue Date	1989-03
oaire:version	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/21291
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

内陸アジア言語の研究 IV

麴氏高昌国時代ソグド文女奴隸売買文書…………… 1

吉田 豊 森安 孝夫
新疆ウイグル自治区博物館

ウイグル文書割記（その一）……………51

森 安 孝 夫

吐魯番最近出土的幾件回鶻文書研究……………77

多 魯 坤 ・ 闕 白 爾
斯拉菲爾 ・ 玉 素 甫

1832年清與浩罕議和考……………87

潘 志 平
蔣 莉 莉

博山方言語彙調査稿（附）淄川方言雜記…… 103

太 田 斎

STUDIES ON THE INNER ASIAN LANGUAGES IV

A Sogdian sale contract of a female slave from the period
of the Gaochang 高昌 kingdom under the rule of
Qu 麴 clan

Yutaka Yoshida
Takao Moriyasu
Xinjiang Uighur Autonomous
Museum

Notes on Uigur documents (1)

Takao Moriyasu

A brief report on the Uigur manuscripts recently unearthed
in the Turfan area

Qambiri Dolqun
Yüsüp Israpil

Qing-Khokand treaty of the year 1832

Pan Zhiping
Jiang Lili

A preliminary lexical survey of *Boshan* dialect with a few
notes on *Zichuan*

Itsuku Ōta

は し が き

『内陸アジア言語の研究』Ⅲの「はしがき」で予告された第Ⅳ巻が、予定通り海外からの寄稿論文2点を含めて、刊行できたことは幸いである。

本巻で掲載した論文は、ソグド語に関するもの1点、ウィグル語・ウィグル語文献についてのもの2点、チャガタイ語文献に関するもの、現代中国語の方言に関するもの各々1点ずつである。それらを資料の時代順に配列した。内容を一読すればわかる通り、それらの資料はどれも最近発見・収集された極めて資料価値の高いものばかりである。

これらのうち、Dolqun, Israpil 氏によるものは、1985年ウルムチで開催された「中国敦煌吐魯番學術討論会」で発表されたもので、本来この会の参加者に配布された油印本であった。その内容は、『文物』1985/8に掲載された「柏孜克里克千佛洞遺址清理簡記」のウィグル語文献に関する報告を補うものであり、この会の参加者以外にも有益な情報を提供^{する}ものである。例えば、80頁に引用された『梁朝傳大士頌金剛經』の異訳は、Berliner Turfantexte I, Berlin, 1971, p. 23 に見ることができる。なお、この論文で引用されているマニ教文献については、後に改訂版がドイツで発表された (Geng Shimin et al., 'Manis Wettkampf mit dem Prinzen: Ein ^uneues manichäisch-türkisches Fragment ans Turfan', *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft* 137, 1987, pp. 44-58)。本巻では、編集者の判断により、テキストの部分を *ZDMG* に掲載された改訂版のそれととりかえた。またこれ以外のテキストについても、誤植は編集者の判断により適宜訂正した。(ただし85頁の頭韻詩については、『文物』(上掲号)に収められた写真と照らして、受け入れ難い読みが数箇所あり、これについては誤植の訂正の域を越えるので、次号で編集者の一人である庄垣内正弘が小論を発表する予定である)。

来年度には本シリーズの第Ⅴ巻が刊行されることが決定しており、本年度と同じ規模の論文集を出版したいと考えている。本巻に収録された諸論文のテ

マから明らかな通り，内陸アジアの文献言語についての研究は単に言語だけの研究にとどまらない．それ故来年度以降は，言語だけでなく内陸アジアの文化一般について扱われた論文も掲載していくようにしたいと考えている．

1989年3月

アジア大陸の言語研究班